

ひたちおみやし

常陸大宮市農村地区活性化計画（茨城県常陸大宮市）

【取組概要】

- ・事業期間：H26～30年度
- ・事業実施主体：常陸大宮市
- ・事業費：約8.8億円（うち国費1/2）
- ・事業内容：農産物直売施設、加工施設、体験農園 等



施設HP



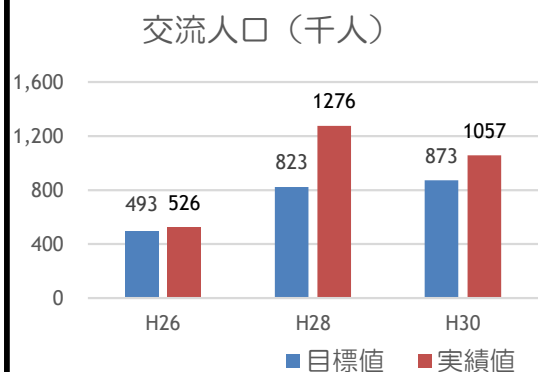
施設外観

取組のきっかけ

町村合併に伴い、活用できる地域資源が拡大したことから、常陸大宮としての特産品づくり、地産地消の推進を図る場づくり、競争力ある農産物ブランドの再構築を図ることとした。

市の多様な関係者（農業関係、久慈川漁協、森林組合、大学等）を含めた検討委員会の中で約3年間かけて基本方針を議論した。

生産が盛んであった「エゴマ」に着目し、エゴマ油やエゴマのジェラートといった加工品を開発した。また、JAや種苗センターと連携し、洋野菜の新規導入を試み、収穫体験やイベントを行うことで周知を図り、地元農家の販売量の拡大を推進した。



エゴマ油が、テレビで取り上げられるなど話題に。また、地元の竹林整備と併せて行われていたタケノコ採取が施設整備を機に販路を得て、加工品のメンマが特産品となった。



みなみ

南あわじ市地区活性化計画（兵庫県南あわじ市）

【取組概要】

- ・事業期間：H25～28年度
- ・事業実施主体：南あわじ市
- ・事業費：約6億円（うち国費1/2）
- ・事業内容：農漁村直売施設、レストラン、交流情報発信基地



施設HP



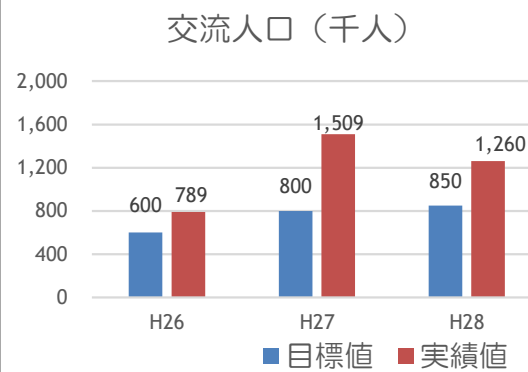
施設外観

取組のきっかけ

たまねぎ等の一大産地であり、畜産、近海漁業等も盛んな地域だが、大量生産が負担となる高齢の生産者が増加していたため、将来的な農畜水産業の維持・発展に向けて少量多品目でも技術を活かした高付加価値化を模索した。

市、農協、漁協、商工会等の多様な関係者により話し合いを進めることで、これまでなかった農畜水産物が全て揃う「あわじ島まるごと食の拠点」として島の魅力発信を計画。

「消費者が望む野菜」をテーマとした出荷者講習会や地元ホテルのシェフとの意見交換会、出荷者自ら売場に立つ販売イベント等により、消費者目線での生産にシフト。



出荷者が端境期や需要を意識して生産を試み、周年販売化を促進。少量多品目でも付加価値を高めた販売を実践できる施設ができたことで、高齢者が技術を活かして農業を続けることにつながるとともに、新規就農者が生産～販売まで挑戦する場となっている。